

第18回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議  
議事概要

日時：令和3年4月26日（月）19時～21時45分

場所：沖縄県庁 6階第2特別会議室

**議題1 県内の感染状況について**

ア 感染状況について、事務局から説明。

（意見交換）

- ・ まん延防止効果は若干出ているが入院患者は高止まり。
- ・ 病床について、高齢者が増える方向にシフトしている。
- ・ 重症患者（挿管患者等）増えている。
- ・ 那覇市では、新規の感染者は減ってきたが、減り方は徐々に徐々にという感じ。

**議題2 感染対策の強化について**

ア 沖縄県の検討案について、事務局から説明。

（意見交換）

- ・ 飲食店を中心とした患者数は減少している。今回の専門家会議の一つのポイントは緊急事態宣言を要請するかどうか。
- ・ 入院患者が減らない中で、「再び増加傾向に転じる場合は、緊急事態措置の要請を検討する」のでは遅いのでは。
- ・ 県の考え方は「5月11日までまん延防止を延長する」ということだが、緊急事態宣言を出した方がいいということか。
- ・ ゴールデンウィークに関西圏からの人を止める算段があれば、まん延防止という考えでもいい。
- ・ 去年、知事は県外の人に「沖縄に来ないでください」と明言した。今は経済界からの強い要望があるのではないか。
- ・ 観光業界が危惧しているのは、ゴールデンウィークを止めることよりはその影響が夏休みに出てしまうこと。去年はゴールデンウィークの止め方自体は観光業界も納得していたが、夏場まで沖縄は危険というイメージが続いてしまった。今年の夏まで経済的に冷え込んでしまうと持たないと考えている。
- ・ 去年の夏は、米軍の独立記念日やGOTOトラベルの要因等で第2波が起きてしまった影響が大きかったのでは。
- ・ 上記の要因が全国に知られたことが大きかったが、やっぱり「（沖縄に）来ないで」と言ったことが夏に向けての予約が入ってこないことに影響していたと観光業界から話があった。
- ・ 去年と比べると治療の選択肢は増えたが、病院のアクセスに届かない人がいて、今後を考えると、命に対峙している私たちは「命優先」。それをないがしろにしていると経済も回らない。

- ・ 変異株等の状況によっては、緊急事態宣言を要請すると（方針の中で）言ってくれば、当面は県の方針に賛成。ただし、宮古で変異株が多い可能性があること、大きい交通事故があったり等、自粛要請があまり効いていないことを懸念している。医療が逼迫していることを伝えていくべきだ。
- ・ まん延防止はある程度効いているので、まずは県外からの流れがうまく止まれば（コロナ患者は）減るだろう。渡航自粛要請を行えば県外からの人は止まるだろうが、問題は入院患者がどこまで捌けるか。
- ・ 県外からの人を入れないという事と県民の状況で下がってくると患者が減っていくが、どちらかが崩れると1ヶ月は待てない。
- ・ 県の検討案には「緊急事態宣言が出ている地域からの移動を控えるように」という文案があるが、知事が実際に言うかどうかのポイント。
- ・ 緊急事態宣言を出すべきだと言ってきたが、まん延防止で少し効果が出ていること、5月11日まで延長すること、変異株や医療態勢の状況を見ながら緊急事態宣言を検討するという文言があれば妥協できるのではないか。
- ・ 緊急事態宣言必要だと考える。
- ・ 緊急事態宣言におけるイベントの制限は沖縄にとって影響は大きい。
- ・ 現在の状況での上がり局面では医療機関に負荷が掛かってくる。ゴールデンウィークで（沖縄に）どっと人が押し寄せる可能性は考えておかないといかない。（特に関西圏）。
- ・ 緊急事態宣言を発するべきだと考える。ワクチン接種率が70%くらいに行くまでは流行が続く。第5波は恐らく第4波よりも大きくなる。第6波でとんとん。第7波まで行けばワクチン効果が期待できる。そういうイメージを県民、経済界が共有しないと今どうするかという事が理解してもらえない。
- ・ 変異株は今5割近く行政検査で出ている。あと1週間後は7～8割。
- ・ 変異株N501Yの特徴は感染力が強い、年齢層が若い層にシフトし、若い人でも重症化する。

### 議題3 病床確保について

#### ア 事務局から資料「新型コロナウイルス感染症に対応する病床の確保状況について」

##### 説明

##### （意見交換）

- ・ 新たな重点医療機関の指定について、透析用病床2床のほか、何床確保予定か。
- ・ （事務局）指定を受けることについて前向きに検討していただいているが、病床数についても当該医療機関で検討中である。
- ・ 後方支援医療機関に県が協力金を出すということだが、これまでも多くの医療機関に受け入れてもらっていたと思うが、そことの整合性と協力金の額について聞きたい。
- ・ （事務局）東京都や大阪府で同様の協力金を制度化しているので、病床がひっ迫している中、本県でも同様の取組を調整している。金額については、1人

当たり20万円で調整している。

- ・ 重症を診る病院はより治療が必要な患者を選択して診てもらう。今日、普段重症を診ない病院で重症化した患者の転院調整があったが、こういう状況ということで転院せずに挿管して診てもらった。こうした形が増えてくるだろう。ベッド数を増やすための声かけしているが、進んでいない。県内の慢性期・回復期の病院は、看護師の数や建物の構造などで難しいところはある。そうであれば、アフターコロナや非コロナの患者をなるべく取ってくれるような協力をしていただきたい。今はオーバーベッドも認められているので、回転をさせてほしい。
- ・ 後方支援病院が積極的に受け入れるようになると、重点医療機関はかなり楽になる。しかし、重点医療機関を増やすということは意外と難しい。病床が劇的に増えるということとはあり得ないと感じる。
- ・ ゴールデンウィーク中は外来が増え、開けてくれる病院を増やしても、県民の受療行動はコントロールできないので、県立病院等に集中してしまうのではないか。
- ・ 以前、新型インフルエンザの時にそのことが起こった。混む病院に医師会あるいは病院から医療スタッフを支援するという方法もある。
- ・ 新型インフルエンザの時は、那覇市立病院に開業医が応援に行った。コロナウイルス感染症への対応でもこのような方法が可能かどうか。
- ・ 那覇市内に1年半前から休院している55床の病院がある。もし再開するとすれば、後方支援病院として協力を依頼できる。
- ・ 南部にある病院の跡地はどうなっているか。
- ・ ライフラインを止めているので、そのまま稼働することはできない状態である。
- ・ 指定医療機関ではスタッフの確保が重要。かなり疲弊し、他の診療科からの応援がないと継続できないが、なかなか応援が得られないところもある。
- ・ 大阪府はコロナ専用病床を作ったが、様々な問題であまり機能していないと聞いている。

## その他

ア 肥満のある者の早期受診の推奨について、医師から提言があった。

(意見交換)

- ・ どういうケースで重症化するか県民に伝わっていない。専門家会議で重症化しやすい人のタイプをリスト化し、受診を促すのもいいのではないか。
- ・ 「重症化しやすい「肥満」、「糖尿」、「高齢者」については、医師の指示に従ってください」というメッセージを発するべき。

イ 県内や全国の疫学状況と今後の対策について、委員から説明があった。

- ・ 沖縄県内では減ってきた医療圏がある一方、南部はまだ増えているほか、宮古は激増している。
- ・ 増えている市町村（9市町村）の共通点は、まん延防止の重点措置が取られていないところ。重点措置が取られたところは全て減少または横ばい。

- ・ ゴールデンウィークの間、「渡航控えてください」と言えなくても、沖縄でもお酒が飲めないというメッセージは出すべき。
- ・ 過去の経験に学ぶという意味で。1月に沖縄が一瞬ピークアウトしたときに専門家会議は成人式を本土から来るなど何度もメッセージをしたが、実際には1月の3連休で東京が最も流行している時期に成人式をやってしまった。その2週間後にまた沖縄で流行を迎え、たくさんの方が亡くなってしまった。今度のゴールデンウィーク、東京が一番ピークになっていると想定される。同じことを繰り返してはならない。
- ・ 高齢者ワクチン接種が進んでも、流行の第5波は避けられないが、ワクチン接種が進めば、重症化や死亡が抑えられ、医療の負荷が軽減できる。
- ・ 認知症独居や日中独居の方に対する接種に向けたキャッチアップが必要。
- ・ 市町村がこれ以上頑張ることで全体のワクチン接種のレベルを上げるのは限界があるので、県が2～3箇所、常設の接種会場を接種して、キャッチアップできる仕組みを構築できないか。
- ・ 渡航者に対する認証制度について、観光事業と感染対策との折り合いをつけるために認証制度を作ってみては。

(意見交換)

- ・ まん延防止については効果が出ていると理解していいと考えるが、重点措置が適用されていない市町村で感染が広がっているという事実は重要。
- ・ オンラインの認証コードは前向きな取り組み。

ウ 精神疾患のある方への新型コロナワクチン優先接種に関する要望について

(意見交換)

- ・ ワクチンの優先接種の順位付け(精神、血友病、HIV)は難しいので、施設の中で同時にすべきでは。

まとめ

- ・ まん延防止等重点措置の継続が前提であるが、沖縄に来る人を抑えることが必須。まん延防止で抑えきれなければ緊急事態宣言。
- ・ 緊急事態宣言の発出については、現時点においては、まん延の防止の効果を見るということではいいのでは。ただ、どこかで縛り(渡航控え)は必要。
- ・ ゴールデンウィークに対してどういうメッセージを出すかというのが大事。